

12月18日（木） 韓国の光陽高校と対面交流

本日、国際理解教育の一環として、韓国の光陽高校との対面での交流を行いました。本校から18名の生徒が参加し、実際に顔を合わせて言葉を交わす貴重な機会となりました。

前回のオンライン交流から約1か月。生徒たちは、少しの不安とほどよい緊張感を胸に当日を迎えました。正門での出迎えの瞬間、期待と興奮が一気に高まり、いよいよ交流が始まりました。開会セレモニーでは、両校の校長先生がそれぞれ相手校の言語で挨拶され、会場は和やかな雰囲気に包まれました。その後のアイスブレイクで緊張した空気を少しずつほぐしながら、交流の第一歩を踏み出し、英語や身ぶり手ぶりをを使って相手に伝えようとする生徒の姿が随所に見られました。

続いて、校内案内及び授業見学を行いました。本校1年次の生徒4名が案内役を務め、校内の様々な場所を紹介しました。案内の最中、両校の生徒は自分たちの高校との違いや共通点を比べながら、笑い合ったり驚いたりする場面も見られました。授業見学では、自己紹介や質問コーナーに加え、一緒に数学の問題に取り組むなど、実際の授業を体験してもらいました。同じ「学ぶ場」を共有することで、さらに交流を深めることができました。

文化交流では、光陽高校の生徒によるダンス披露と、本校生徒による日本の遊びの紹介が行われました。ダンス披露では、一つ一つの振り付けに歓声が上がり、会場は大いに盛り上がりました。日本の遊びでは、「福笑い」や「ハンカチ落とし」、「なんじゃもんじゃゲーム」など、多種多様な遊びを一緒に体験しました。笑顔と歓声が広がり、言葉の壁を越えて気持ちが通じ合う、活気あふれる交流の時間となりました。

閉会セレモニーでは、代表生徒による挨拶、記念品の贈呈に加え、共同フラッグプロジェクトを実施しました。一人ひとりのメッセージが書き込まれたフラッグは、日韓交流の象徴として、両校の生徒の心に刻まれるものになりました。

今回の対面交流を通して、生徒たちは「相手に伝わった」という実感を得ることができました。言語や文化の違いを越え、相手を理解しようとする経験こそが国際交流の目的であり、その大切さを体感できた一日となりました。

